

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800431		
法人名	医療法人 日新会		
事業所名	「至福の郷」グループホーム東町 だんらんの家		
所在地	福島県喜多方市字石田4041-1		
自己評価作成日	平成27年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成27年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活リハビリを多く取り入れ出来る事は本人様に寄り添いながら行って頂き、生活をしている喜びを感じて頂く様にしている。笑う事を大事にしている。又ご家族との信頼関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスを考え理念を基に、管理者と職員は利用者一人ひとりに寄り添いその人らしく暮らしていけるようケアの向上に取り組んでいる。
地域や行政の協力を得て、認知症カフェを開催し認知症の理解や本人家族の相談を受けするなど、事業所の力を活かし地域に貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で生き生きと暮らしていける様理念を作り苑内にて無理のない生活リハビリを行うて頂く様努めている。	管理者と職員が、これまでの暮らしを活かしながら生活してもらえるよう話し合い、理念を作成している。一人ひとりの持っている力を活かし、笑いのある生活ができるようケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加させて頂いている。毎年、夏祭り、秋の収穫祭に参加し、地域の方に月2回硬筆ボランティアに来て頂いている。又、施設で発行している「ふるさと新聞」を配布し施設の生活をお知らせしている。	事業所前の保育所の行事に参加したり、子供たちと挨拶をするなどしている。中学生の体験学習を受け入れ、認知症や福祉事業について知ってもらっている。近隣の方から季節の野菜などをいただく等交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で安心した生活ができる様区長様、民生員さんより情報を頂き、認知症カフェ「お茶会」を有効に開催し地域の方に来て頂く事が出来る様今後も努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域のボランティアの方に運営推進委員のメンバーに出席して頂き施設を知って頂く様努めている。地域の方にもっと知ってほしいという言葉が出ており広めて行きたいと思う。	地域や家族の方から、事業所をもっと知ってもらえるように情報を発信したらとの意見をもらい、チラシを配布するなどしている。意見交換のなかから地域の情報をいただく等、活発な話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会、グループホーム連絡協議会に出席して頂き協力関係を築く様努めており、又「認知症カフェ」お茶会を通し認知症を理解して頂く様共有しながら連携に努めている。	日頃から情報交換が行われ、入居依頼や研修会の情報をもらったりしている。認知症カフェの日程を市の広報誌に掲載してもらい、地域の方に参加を呼びかけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内勉強会で身体拘束のないケアについて読み合わせをしながら、精神的弊害には十分気をつけてケアに努めている。	身体拘束はしないことを基本にしている。利用者一人のひととして丁寧に声かけや話しをしたり、ことばの拘束をしないように努めている。虐待身体拘束委員が中心になって、気づいたことや感じたことを話し合いケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内勉強会で特に心理的虐待には意識を持つ様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、弁護士が後見人となり入所している利用者様があり市とも連携取りながら連絡を密にし理解する様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時に十分説明し理解した上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所持、話しやすい雰囲気作り心がけている。日々の関わりの中で利用者様の気持ちを声に出る様確かめている。月1回介護相談員、傾聴ボランティアが入り、思いを聞いて頂いている。	利用者・家族・職員が話し合い、連携をとりその人らしく暮らせるように取り組んでいる。事業所の場所の案内について提案があり、わかりやすく答えられるよう印刷し、活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で職員の意見、要望を出し合える機会を作り又、日々の申し送り職員との気付き等話し合い、運営やケアサービスに反映出来る様努めている。	管理者と職員は日頃から気づいたことや方向性を話し合い、ケアに反映させている。行事の内容について利用者の負担にならないよう考え、状況・状態に合わせて見直しをしたいとの提案があり、話し合い実行できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表で職員の意識を高めてもらい、コミュニケーションを大事にしている。介護職員処遇交付金を処遇改善手当てとして支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修を受講している。また、事業所内勉強会を定期的に行いケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回管理者会議で情報交換を行っている。認知症カフェを開催する事で同法人との交流の機会が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様や家族様より入居前の状況、状態を伺いケアサービス内容に反映出来る様にしている。本人の表情、動作に目配り、傾聴しながら自尊心を傷つけない様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査、契約時に介護の経過、現在困っている事、不安に思っている事を聞き家族の思いが反映出来る様努めている。又信頼関係が築かれる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と本人様の話を聞き納得したサービスが出来る様努めている。今後の事についてサービス利用について説明させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の家事全般において皆さんと一緒に一緒に行っており、お互い協力し合い楽しんで行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の生活面、身体面、受診結果報告をさせて頂き行事への参加、又来所時ゆっくりとして頂く様配慮しながら職員とも話しが出来る雰囲気作り努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人の方がゆっくり出来る様お茶と一緒に飲んで長い時間を過ごして頂いており又、親戚宅に行かれたり行き付けだった店に足を運ばれたりと思いを叶えられる様努めている。	入居時にこれまでの関係を把握し、馴染みの場所や生活のなかで話を聞き、要望に合わせて出かけるようにしている。美容室の方が定期的に訪れ、馴染みの関係が作られ継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士会話が繋がらない時職員が何気なく話しの橋渡しをしながら皆様に声掛けをし誤解のない様、又言葉を発する事が出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所になられて利用者様の様子伺いに顔を出したり、家族との方と話をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日常の様子や言葉で気付いた事があれば申し送りの時間や職員会議で話し合い、思いや意向に添えるよう努めて行きたい。	読書や編み物など、好きなことが継続してできるように支援している。伝えにくい方には、表情や行動から思いを汲み取り、ことばかけを工夫しながら把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活の様子と、入所後に家族様からの情報、本人様との会話の中で新しい情報など感じ取られ経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々一人ひとりの状態を見守り見極めながらその方の生活のリズムで過ごして頂く様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族、職員が共有出来る様ケアに対する意見交換をしよりよいケアが提供出来る様努めている。	本人・家族・職員・医療機関が連携をとり、その人にあった介護計画を作成している。状態の変化に応じて、家族に連絡・確認してもらい柔軟な見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、チェック表、申し送りノートの活用により情報を共有している。又ミーティングや職員会議等モニタリングで、ケアの改善、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院されて利用者様の洗濯物など施設対応にさせて頂きながら小まめに行き本人様の様子を見る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、イベントに参加しボランティアの訪問、保育所との世代間交流など出かける機会を多く設け心豊かになる様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様と家族の方が安心出来る受診の継続、意向を確認しながら希望の病院の受診を支援している。変化のある時は家族の方に同行して頂き状態を知って頂く様に努めている。	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診している。利用者の生活状況や健康状態を把握しているため、受診は職員が同行している。受診結果は家族に伝え、確認してもらい共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護師に来て頂き報告、相談し、状態によっては受診にも繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を提供し伝達している。病院に出向き回復状態の把握や家族と連絡を取り合い、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として対応できる身体状態をケアしながら医師に報告、相談して行く。家族の方と話し合いを多く持ち職員全員と共有出来る様努めている。	入居時に、重度化や終末期について説明し、確認してもらっている。重度化した場合は、事業所として対応できることを医療機関と連携をとりながら、安心してもらえるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命講習を受けている。年1回施設において3時間講習会と1時間30分講習会を交互に積極的に受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は消防署に依頼し避難訓練を実施している。6月と10月には地域の、のびやか保育所との合同避難訓練の実施をしており施設としては毎月避難訓練を実施している。区長様に通報が行く体制となっている。	夜間を想定した訓練後、消防署から避難経路の確認や転倒させないことが大切とのアドバイスもらっている。職員は、災害時の役割を理解して安全に避難できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の背景を知る事、性格、行動、言葉、表情を見て気持ちに添う様に、その方に合わせた言葉かけに努めている。	一人のひととして、かかわることを大切にしている。その人の体調や気分を見極めながら、声かけを工夫し対応するようにしている。利用者同士でプライバシーを損ねるような場合は、職員が間に入り話題を替えるなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い、希望を言葉として表現出来ない事が多い為、話の内容も色々な面から持って行きその中で見つける様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さんが職員や他の利用者様との関わりを持つ様にしている。一人の時間も大切に又利用者様同士での時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日が同じ服にならない様にしている。ボタンの掛け違い、ズボンの前後、衣類の裏表など十分気をつけている。ほころび等、裁縫が出来る方をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は出来る範囲でお手伝いして頂いている。餃子作り、ひし巻き作り、お稲荷さん、おはぎ作りなどは特に皆さんが力を発揮出来るメニューであり楽しく行って頂いている。	利用者の希望する好みのものを取り入れ、バランスの取れたメニュー作りをしている。家族や地域の方からいただいた、季節の食材を使い食事を楽しんでもらえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時に表に記入しており、職員が解る様にしている。食器の形態、食器の色、食事用エプロンなど個人個人に合わせ使用している。量、味についても本人様の要望に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後嗽をして頂く。就寝前は特に入れ歯の洗浄、嗽、歯ブラシでの清掃を声掛け見守りのもと出来ないところはお手伝いをし自立されている方にはお任せをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の力に合わせトイレでの排泄を心がけている。尿意のある方は本人にお任せしている。時間で声掛けし気持ちよく排泄出来る様になっている。排便については、確認させて頂いている。	利用者の表情や行動の変化を気づき、声かけしトイレで排泄できるようにしている。自立している方には見守りながら確認し記録している。入居前よりも、失敗が少なくなり家族の方に喜んでもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材、水分、身体を動かす事で自然排便を促す様に心掛けている。薬の影響もある為様子を見ている。排便の状態を見ながら下剤の量をその都度調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日を除き毎日入浴が出来る。日中の入浴になるが利用者様は大変喜んでおり安全に十分注意し気持ちよく入浴して頂いている。体調に合わせて足浴、シャワー浴、清拭と無理をしない様努めている。	本人の希望に合わせて、入浴できるようにしている。そのときの気分で気乗りしない方には、声かけを工夫している。足元が見える入浴剤を活用し、不安にならないようにしている。ゆず湯などで季節を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝は皆さんにとって頂いている。下肢の状態を良くする為でもあり、精神的にも安定する。夜の就寝時間は利用者様に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更された時は十分気を付けている。受診記録は必ず目を通し受診内容を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中での仕事をその方なりに行って頂き直す事はせず出来た事に対する感謝と称賛で喜びを感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出は職員だけでは中々頻回には難しいが、天気の良い日は適度な距離を散歩している。家族の方が協力的であり毎週必ず外出をして気分転換を図って頂いている。利用者様もおり本人様も楽しみにしている。	近くの公園に出かけたり、しだれ桜を見に行くなど出かける機会を多くしている。遠くに行くときは、下見をして安全に安心して出かけられるよう支援している。家族と一緒に買物や食事に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の事を心配され職員まで聞きに来られる方もいますがその都度安心される声掛け対応している。基本的には職員預かりで行っている。希望があれば一緒に出かけ買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りは子機を使用し自室にて会話出来る様にしてしている。娘さんからのハガキや手紙を楽しみにしておりこちらからも手紙を書いて頂き支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目に優しい観葉植物や季節の花などを置き又季節に合わせた飾りなど楽しんで頂き刺激となる様な事は混乱を招く為十分気を付けている。	やわらかく暖かい目に優しい色に照明を工夫して、落ち着いて暮らせるようにしている。一人ひとりの好みの場所で、雑誌を読んだり調理の手伝いやおしゃべりをするなど、自由に過ごせる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室であり静かに読書、スケッチ、写経、計算ドリル、日記など思い思いに自分の時間を使われている。又部屋をお互いに訪ね会話を楽しまれており見守り支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	現在の部屋が馴染みの部屋であり自宅で使用されていた物を持って来て違う景色となり必ず安心するとは言えない。今の物を飾る方が自分の物として見ている様であり落ち着く場所となっている。見守り支援する様努めている。	今まで生け花に使っていた用具や書くことが好きな人は机を持ち込み、趣味を活かしその人らしく生活できるようにしている。掃除や衣替えは利用者と職員が一緒に行い、整理整頓し清潔にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は複雑な構造ではない為動きやすく、自室戸口にぬいぐるみや造花を飾り解り易くしている。危険な物はすぐ排除している。		